

千葉市美術館
アーティストプロジェクト
報告書

つくりかけラボ17
井上尚子 | 記憶の標本室
— Life is Smell project —
KUNKUN Laboratory

会期
2025年
2月12日(水) - 6月1日(日)

アーティスト
井上尚子

テーマ
五感でたのしむ

概要
つくりかけラボとは、「五感でたのしむ」「素材にふれる」「コミュニケーションがはじまる」いずれかのテーマに沿った公開制作やワークショップを通して空間を作り上げていく、参加・体験型のアーティストプロジェクトです。

今回は、「匂いと記憶のアーティスト」井上尚子さんをお迎えし、匂いによる個人の記憶が集積する空間「記憶の標本室」をつくりました。音楽ユニットVegetable Recordによる楽曲が、他者や自らの匂いの記憶と向き合う空間を演出し、井上さんが取り組んできた「Life is Smell プロジェクト」に、新しい魅力を加えました。

記憶の標本室

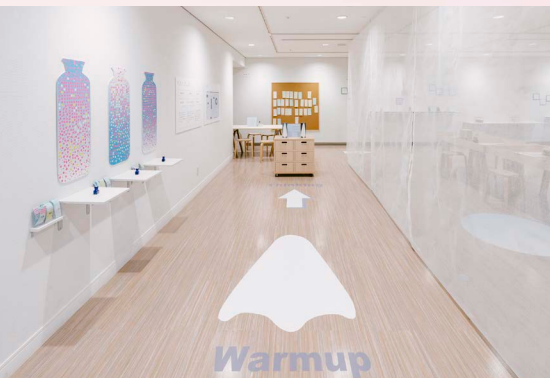
— Life is Smell project — KUNKUN Laboratory



「記憶の標本室」とは、どのような空間だったのか

目の見える人が受け取る情報の約8割が視覚によるものともいわれ、匂いや嗅覚については、日頃あまり深く考える機会はないかもしれません。一方で、嗅覚は個人の記憶と強く結びつき、それゆえ他者と共有することが難しい体験であるとされます。「記憶の標本室」では、会場は3つのセクションに分けられ、来場者が自らの匂いの記憶に向き合うためのステップが用意されました。ここでは、井上さんによっていねいに設計された体験と空間を、実際の会場構成に沿って紹介します。

Section 1



千葉の匂いとは出会うコーナー / 右上：中央のパネルの白いシールが目立つのは、千葉のピーナッツの香りが優しいから？



Warmup

千葉の匂い

最初に鼻の準備運動として、千葉の匂いとは出会うコーナーが設けられました。3つ並んだ小さな瓶の蓋を開けて匂いを嗅いでみます。「すき」はピンク、「きらい」は黄色、「何も感じない」は白、それぞれ当てはまるシールをパネルに貼っていきました。

瓶の中身は、檜チップ、ピーナッツ、ブラジルコーヒーでした。いずれも、井上さんが千葉でのリサーチを経て見つけた「千葉の匂い」です。



Thinking

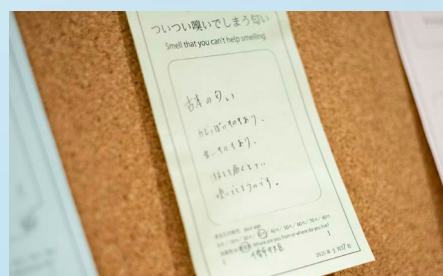
「はなみくじ」

会期中毎日 参加者=のべ7,626人

準備運動ができれば、次は「はなみくじ」を引き、おみくじ箱の下の穴から出てきた2つの番号に対応するミッションカードを選びます。カードには、32編の日常生活で何気なく感じているポジティブ／ネガティブな「〇〇な匂い」のお題が書かれています。裏面には偉人たちの匂いや記憶にまつわる格言が印刷されていて、参加者はお題を考えながら、新たな視点を得る機会にもなりました。



おみくじは三角柱の箱で、鼻のシルエットが側面に描かれています。鼻の穴を想定した2つの穴から番号が付けられた棒が鼻水のように飛び出します。



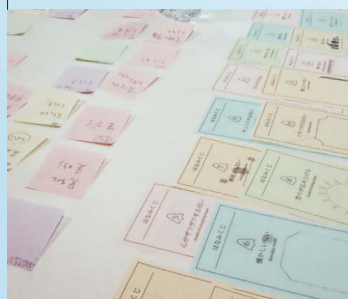
記入後に掲出されたはなみくじ。他の人がどんなことを書いているか読んでみます。

あつまれ！つくラボ研究員 「はなみくじ研究会」

4月27日（日）

講師＝井上尚子 参加者＝3人

つくラボ研究員の皆さんと新しいおみくじの言葉を考えました。参加者は、7歳×2人と10歳の小学生。匂いをテーマに1日の生活を振り返り、出てきたキーワードから新しい匂いの質問カードをつくって、会場に設置しました。



Section 2

Smelling and Reading

匂いを読む

ここでは、井上さんが国内外を問わず1年間かけて集めた多様な匂いとその記憶が展示されていましたが、会期が進むにつれ、来場者の方々から寄せられた匂いの記憶も加わっていきました。様々な匂いを嗅ぎ、添えられたエピソードを読み、それらを楽しみながら、自分自身の中で蘇る記憶に向き合います。「匂いのもの」をきっかけに、親子、友人同士、カップルが、自然と自らの匂いの記憶を語り始める姿も見られました。



Weekly Scents のコーナーには、葛根湯・整髪料・書籍が展示されました。



先行する「Life is Smell プロジェクト」で集められた「匂いのもの」が紹介されました。壁沿いには、量やタバコ、パニラビーンズ、鉄粉などが並び、展示台にはベジマイトや油性ペン、ローズウォーター、ゆかり、ラベンダー、そして、都市のイメージを再現した高砂香料工業株式会社のオリジナルフレグランスなど、多彩な匂いが集まりました。



クレヨン、正露丸、猫の毛、油粘土、ひまわりの種、歯磨き粉、おはじき、フィルムなどが、透明な瓶の中に閉じ込められ、ガラス壁を飾ります。

Section 3

Life is Smell

記憶をしるす

会期中毎日 参加者=のべ1,152人

最後は自分の人生を匂いの記憶とともに辿るコーナーです。0歳から現在そして未来まで、思い浮かぶものとその匂いを、エピソードカードに書いていきます。ゆるやかに音楽が流れる空間で、自分の記憶と向き合いました。



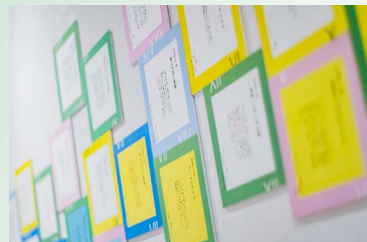
Epilogue

匂いの記憶からみえてくるものとは

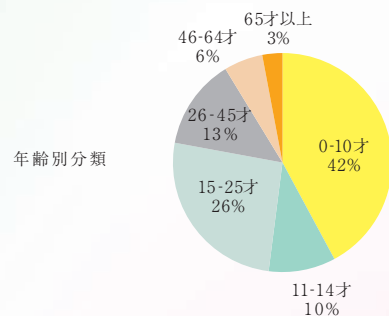
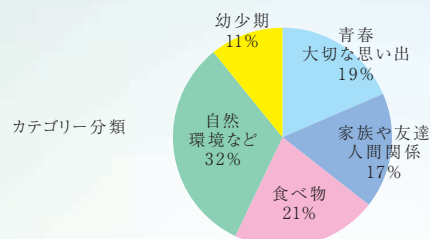
集積していくエピソードの中から井上さんが選んだものを標本に見立てて分類し、正方形のパネルという形式に落とし込んで展示の一部となりました。一つ一つに付けられたタイトルは、井上さんからエピソードを提供してくださった方へのアンサーソングであり、のちに訪れる人々を、この生きた記憶の標本室へと招き入れる言葉であったともいえるでしょう。



カテゴリごとに綴じられたファイルも用意されました。



展示されたパネルは、カテゴリと年齢によって、色分けされています。



記憶の標本室のための音楽

会場を演出したのは、音楽を使った空間デザインを手掛けるVegetable Recordによる、「匂い」「記憶」「標本」をコンセプトに作曲された6つの楽曲でした。壁に沿って床面3箇所に置かれた小型スピーカーからは、美術館と周辺エリアのリサーチを経て、その時の記憶や収録された音源をもとに制作された楽曲が再生され、空間の中央付近で展示されている3つの匂いのもの（ローズウォーター、コーヒー豆、ベジマイト）に添えられたガラスの密閉容器からは、来場者が蓋を開けると音が流れ出します。これらの楽曲が互いにズレ続けながらも調和し合い、いる場所によって聴こえ方がグラデーションのように変化し、各エリアを有機的な音楽空間で繋いでいきました。



瓶の中に仕掛けられた小型スピーカー。密閉されると音はほぼ聞こえなくなります。



Vegetable Record
HP

プロジェクトの準備

KUNKUNリサーチ in 千葉

2024年5月22日（水）、6月6日（木）

Vegetable Recordの林翔太郎さん、三上僚太さんと一緒に、前年の5月末から6月にかけて、美術館や周辺エリアを調査しました。1日目は美術館の内外をくくん。当時、荒井恵子さんの和紙と墨をテーマにしたプロジェクトが開催されていたラボをはじめ、さまざまな人が訪れる展示室から、ひっそりとした地下の駐輪場まで匂いを求めて歩きました。「千葉の匂い」で取り上げた檜チップは、2日目の調査で訪れた千葉神社で出会ったものです。梅雨入り間近の蒸し暑さのなか、匂いから見えてきたまちの輪郭が、「記憶の標本室」を構成する重要な要素として、視覚と聴覚の両方からかたちになっていきました。



美術館の書庫をくくん



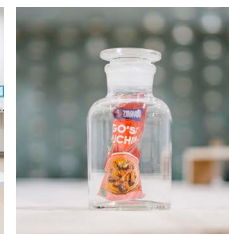
千葉市立郷土博物館の上階からくくん

‘Life is Smell project’

「記憶の標本室」は、井上さんが2021年から取り組んできた「Life is Smell プロジェクト」の一環として企画されました。ここでは、先行するプロジェクトとして、青森公立大学 国際芸術センター青森 [ACAC] での展覧会「Life is smell ～素数の森～（2024年2月10日～3月3日）」、東北大学において異なる国や世代の人々で行ったレクチャー＆ワークショップ（2024年10月23日）、東京・蒲田での「くくんウォーク@おいしい道2024」（2024年11月2日、3日）、横浜で開催された「語るにおい、街のきおく」井上尚子展 ONO POINT ART SPACE 鶴見（2023年12月20日～2024年2月18日）、そして、いくつかの異国の香り（お土産として井上さんの手元に届いたトルコの石鹸、ハワイのチョコレート、台湾のお香、ウズベキスタンのスパイス）にまつわる匂いの記憶を紹介しました。これらの成果展示は、会期初日から「匂いを楽しむ」コーナーとして来場者の参加を促す役割を果たしていました。



異国の香りが集められたコーナー



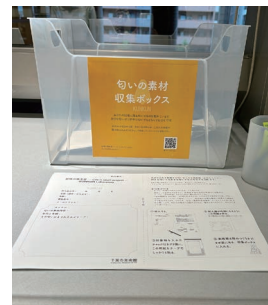
ウズベキスタンのスパイス

プレ・プログラム

「あなたの記憶に残る匂いの素材を集めます!」

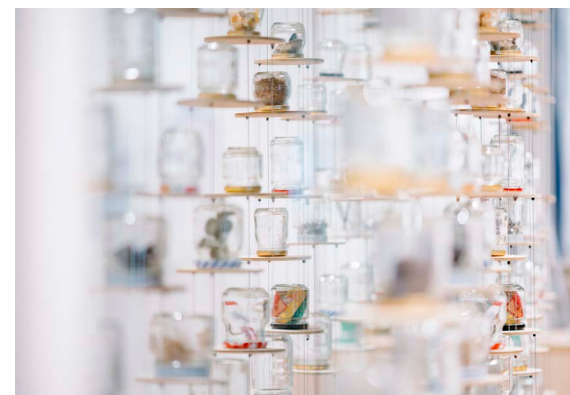
2024年10月1日（火）～2025年5月31日（土）

会期に先立ち、記憶に残る匂いのものの提供を呼びかけました。好きな匂いでも、苦手な匂いでもどちらでもOK。小学生の頃の水彩絵の具、京都のお香、ボンカンの皮、留学先の思い出のハーブティー、ベビーパウダーなど、エピソードとともに寄せられた「匂いのもの」たちは、ガラス瓶におさめられ、展示されました。



空き瓶集め

様々な家庭から集められた使用済みの瓶。113個の空き瓶の中には新たに様々な「匂いのもの」が入れられ、会場のガラス面を飾る作品「Apartment of Scents」となりました。色とりどりの中身を閉じ込めてキラキラと光るガラス瓶の美しさに目を奪われながら、嗅ぐことができず想像するしかない匂いの手がかりとして、自らの記憶をたどる作業へと誘われます。なお、洗っても匂いが取れない14個の瓶には、「雨上がりのカタツムリ」「ドロップ缶と少女漫画のトキメキ」「野生の体臭強し」など、井上さんによってユニークなタイトルが付けられ「残香コーナー」を構成。個人の記憶のエピソードとはまた別の方向から、匂いが呼び起こす記憶について体感する機会となりました。



上：残り香の瓶 / 下：“Apartment of Scents”

会期中のイベント

アーティスト・プログラム

「KUNKUN RADIO」

全11回 出演＝井上尚子、ゲストの皆さま（15人）

視聴者＝1,073人（2025年6月30日現在）

井上さんがポッドキャスト・ラジオのパーソナリティとなって、各回のゲストとともに匂いと記憶にまつわる話題を掘り下げていった「KUNKUN RADIO」。開幕の告知を兼ねた美術館スタッフチームとのトークに始まり、Vegetable Record、キービジュアルと広報物のデザイナー、カメラマンといった「記憶の標本室」制作チームの面々だけでなく、今回のプロジェクトをきっかけに繋がりを得た方々にもご出演いただきました。公開収録イベントとした#09以外でも、



#08の収録風景

オープンエリアでの収録のため、4～5人の聴衆が集まることもありました。#10には、次のつくりかけラボのアーティスト・池田光宏さんをお迎えしました。

- #01「つくりかけラボ、始まりました」
- #02「香る江戸絵画」
- #03「匂いの記憶と音による空間、アフタートーク」
- #04「ラボ1ヶ月の来場者と空間の変化について」
- #05「メインビジュアルのデザインについて」
- #06「写真とにおいについて」
- #07「体験してみてどうでしたか」
- #08「〈においとかおり〉の捉え方の違いについて」
- #09「〈記憶の標本室〉最終日イブ」
- #10「つくラボ17から18へ、バトンを渡します。」
- #11「記憶の標本室を終えて」

ポッドキャストは
こちらからお聴きいただけます



アーティストトーク

「匂いの記憶と音による空間
＜記憶の標本室＞をめぐるって」

3月2日（日） 参加者＝11人

Vegetale Recordのお二人をお迎えし、井上さんとのアーティストトークを行いました。昨年（2024年）2日間の「くんくんウォーク」*の様子も振り返りつつ、「記憶の標本室」ができるまでのこと、そして匂いと記憶にまつわるエピソードなどをお聞きました。なかでも、実際に会場で流れている楽曲がそれぞれどのようにして生まれてきたのか、リサーチからの着想とコンセプト、音に託された意味などをうかがうことで、匂いと音のシンクロするこの空間が、さらに立体的で彩り豊かなものと感じられるようになりました。

*KUNKUNリサーチ in 千葉を参照（p.5）

アーティストトーク

「＜記憶の標本室＞について」

4月19日（土） 参加者＝17人

「記憶の標本室」のコンセプトや用意されたプログラムについて、実際に会場内をまわりながら、井上さんのお話をうかがいました。

つくりかけラボ17を終えて

いつも来場者として楽しんでいるつくりかけラボを「匂いと記憶」の世界に染める約3ヶ月半は、喜びと感謝の日々でした。

「記憶の標本室」は、1年前からVegetable Recordさんと一緒に千葉市内、美術館内の匂いや音をリサーチして準備をはじめ、来場者が自己と向き合い、記憶回想を優しく誘う時間を想定して、空間設計していきました。

「匂いと記憶」をテーマに制作を続けて約25年。Life is Smellプロジェクトは、2021年から開始し、個々が歩んできた人生を匂いの経験から振り返り、明日（未来）への気づきと新たな記憶を作る作品として様々な地域で開催してきました。つくりかけラボでは、外国からの観光客、聞こえない人も聞こえる人も、見えない人も見える人も、車椅子の人も、老若男女、個々の感性で感受し、真摯に綴った過去・現在・未来の記憶のエピソードが、予想を遥かに超えた喜怒哀楽の人生の機微を映す1,113話の物語として集積しました。中でも複数の人に共通する匂いの記憶として、母となり新たな命の誕生の匂いや、祖父母の命の終焉、部活に熱中した青春の汗、おばあちゃんの家の匂い、臭いと称される父の体臭、心を満たすコーヒー、布団の温もり、初恋から失恋など恋愛にまつわる匂いは、印象的でした。また、普段、親しき友にも吐露せぬであろうエピソードが開示されることもあり、鼓動が高鳴る瞬間もありました。そして、新たな活動にも挑戦させていただき、KUNKUN RADIOでは、ラジオトークのスキルを磨きながら、このラボと一緒に作り上げたメンバーやゲストを迎え、次回18回目のつくラボ・アーティストの池田光宏氏にバトンを渡すこともでき、嬉しく思いました。これらすべての大切な人生の記憶は長年収集している「匂いの記憶図鑑」に収められ、未来の記憶へと紡いで参ります。そして、最後に、美術館の全スタッフ、制作メンバー及び来場者に心より感謝致します。

井上尚子（いのうえ ひさこ）

環境、文化、歴史を匂いの記憶から楽しむ「くんくんウォーク®」を教育機関、美術館、図書館、植物園、企業、公園、空港など国内外で開催。2024年「めぐる身体。めぐる丸の内」展@東京藝術大学+YAU、「語るにおい、街のきおく」展@ONO POINT ART SPACE、他、早稲田大学、群馬県立女子大学、東北大学、玉川大学にてゲストレクチャー、「匂いと記憶で歩く青森」@トランヴェール（JR東日本新幹線車内誌）。2023年「Life is Smell 素数の森」@国際芸術センター青森【ACAC】、インクルーシブ・プログラム@横須賀美術館、障害児支援運営委員会で開催。2022年 渋谷公園通りギャラリー、千葉市美術館、横須賀美術館、森美術館等でWSと展示。2017年 Museum Villa Stuck in Munichにて「The Library of Smell」（共同制作：白須未香+柴山拓郎）展覧会+WS開催。WWFジャパンと全国の動物園にて「においでめぐる動物園」開発・実施（2019年グッドデザイン賞受賞）。2018年、The Art and Olfaction Awards 2018 finalist in London、六本木アートナイト2018参加。https://kunkunwalk.jimdoweb.com/



「記憶の標本室」最終日イブの夕方、「KUNKUN RADIO」の収録のため、井上さんと並んで廊下からガラス越しに室内を眺めつつ、3ヶ月余りの会期を振り返りました。会期中には1,000を優に越えるエピソードが集まり、最終的には約400点のカラフルなパネルが壁面に掲出されました。匂いの記憶はコロナ禍には目に見えて少なく、あったとしても他の誰かとの記憶ではない。恋人よりもおばあちゃん家についてのエピソードが圧倒的に多く、想像で書く未来の記憶は環境にまつわる匂いを想起する人が目立つ……など、それらはいずれも、最終日を前に実感として見えてきたことでした。エピソードとして寄せられた様々なドラマ、アーティストから参加者へ贈られたタイトル、誰かの匂いの記憶が言葉としていねいに紡がれ、作品としての空間が豊かに育っていった3ヶ月。アーティストと来場者、そして来場者同士のやりとりの形がよく見えたラボでした。

匂いの記憶は偽れない。視覚的な思い出は、ときに美化され、それに自分自身も騙されることがありますが、匂いが呼び起こす記憶はもっとダイレクトに脳に作用するのでしょうか。ニヤリと笑ったり涙が溢れたり、自分でも驚くような反応が瞬間的に自分の中から引き出されるように思います。そんな、1人で黙って向き合うには厳しさもあるこの空間をリラックスさせ、積み重なった見ず知らずの人々の記憶をゆるやかに共存させていく役割を担ったのが、Vegetable Recordによる会場音楽でした。匂いのものを目でとらえ、ガラス容器の中から漂う匂いを嗅ぎ、瓶の蓋を開けると流れ出る音楽を聴く。匂いの記憶を体験するために、視覚・嗅覚・聴覚を動員すれば、触覚と味覚も想像力によって引き出されていくでしょう。「記憶の標本室」は、まさに五感で体験するプロジェクトであったと思います。

（山根佳奈 千葉市美術館学芸員）

つくりかけラボ17 井上尚子 | 記憶の標本室
— Life is Smell project — KUNKUN
Laboratory

会期
2025年2月12日(水)～6月1日(日)

主催
千葉市美術館

音楽制作
Vegetable Record

設営
Office Toyofuku

滞在制作
2月13日(木)、15日(土)、16日(日)、27日(木)、
3月1日(土)、2日(日)、22日(土)、23日(日)、
4月5日(土)、6日(日)、19日(土)、20日(日)、
5月3日(土・祝)、4日(日・祝)、14日(水)、15日(木)、
17日(土)、18日(日)、22日(木)、25日(日)、
30日(金)、31日(土)、6月1日(日)

来場者数
6,514人
(大人 5,582人、高校生 116人、中学生以下 816人)

本プロジェクトのウェブページは
こちらからご覧ください



Special Thanks
出 佳奈子 (弘前大学)
慶野 結香 (青森公立大学 国際芸術センター青森
[ACAC])
赤石晴美
小田切峰
加藤晴馬
河原瑠子
木下雄二
「素数の森」ワークショップ参加者の皆様

Chia-huei Tseng (東北大学)
Alyne Delaney (東北大学)
Davoudi Zahra (東北大学)
David Gilbey
Hideji Masuda
Takumi Tanaka
富樫光子
中込悠馬
'Life is Smell workshop' 参加者の皆様

株式会社TBS ラジオ
株式会社シャ・ラ・ラ・カンパニー
石山蓮華

Ono point art space WeTT 実行委員会
服部宏昭
服部澄子

一般社団法人蒲田東口おいしい道計画
南 ゆか (高砂香料工業株式会社)
米田祐子 (高砂香料工業株式会社)

加須市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課
フランス菓子 VOSGES 本店
ラムじいさんのインドカレー 加須店

東京藝術大学キュレーション教育研究センター

阿部祐子
稲貝未来
顧 可
佐藤隼人
田中美有
中村しのぶ
那須透
林 翔太郎
真板寛子
山下英三

池田光宏
うえさん
岸山泰輝、中尾有希 (デザイナー/井の中のクジラ)
山本佑介

つくりかけラボ17 井上尚子 | 記憶の標本室
— Life is Smell project — KUNKUN
Laboratory 報告書

執筆
井上尚子
山根佳奈

撮影
田中亨憲
井上尚子
千葉市美術館

デザイン
大坪メイ (キギと創造株式会社所属)

印刷
株式会社エイチケイグラフィックス

編集・発行
千葉市美術館

発行日
2025年9月30日